

パネルディスカッション

1. 出願準備

2. 英語について

3. 出願とその後

2017年夏期海外大学院留学説明会@東京大学

2017年7月22日（土）

進行：高木隆司

Massachusetts Institute of Technology

Department of Physics, Ph. D.課程

3. 出願とその後

- 志望校の選び方
- 情報の集め方
- 登壇者の合格の決め手
- 研究室の決まり方
- 実際に入ってみて
- 留学して良かった??

志望校の選び方

- 上原：研究者の層が厚いかどうか
- 高木：自分の分野に十分な数の先生がいるか
- 村上：日本人卒業生の学術分野への就職率が高いかどうか
- 吉永：興味のある研究室が複数あるか、論文出版が盛んか、スタートアップが盛んか
- 渡部：よく読む学会誌に興味のある論文を投稿している人の大学

**選び方の基準は色々あれど、
本当に進学したいと思えるところにのみ出願しよう！**

情報の集め方

- 上原：既に海外の大学院にいる・いた人に大学院出願のコツを聞く、THE GRAD CAFÉやQuoraで情報集める、分野の世界的動向を知っている先生にどこに良い研究者がいるか聞く。
- 高木：学校や研究室のHPを徘徊。卒業生や現役生に話を聞く。
- 村上：先輩の留学生に質問、HPをサーチ。
- 吉永：興味のある分野の論文を出している研究室をチェック。
- 渡部：駒場だったのでアメリカ科の授業に出て、その先生や先輩にあたった。

HPは情報が古い場合があるので注意！学校を訪問する時は、先生だけでなく学生にも話を聞こう！

登壇者の合格の決め手

- 上原：推薦状、エッセイ
- 高木：Supplementary material、推薦状
- 村上：推薦状、研究業績
- 吉永：推薦状、奨学金、SOP
- 渡部：SOP、Writing Sample、合格したプログラムのその時点での人種国籍分布＝運、（推薦状がどの程度機能したかはわからない。）

Discussion1: 補助資料の意義。何をすればいいの??

Discussion2: 推薦状とSOPが大事なのは分かった。でも実際どうすればいいの??

研究室の決まり方（いつ、どのように）

- 上原：研究室はない。博論審査の教員が3人確保できて、統計の論文を書けば基本何でも許される。通常、1年生の時にお試しで先生を決めてその人と研究し、2年生の終わり頃から本格的に一緒に研究する先生を見つけていく。複数の先生や他学部の先生と研究する人も多い。
- 高木：Open house（入学前の4月）の時に先生と話して一度決定（色々な諸事情あり）。一年目の夏に研究室変更を決意。2年目春に変更。
- 村上：研究室はない、決める必要はない。指導教員を決めるのは3年生のころ。同時に他教員の指導を受けることも可。博論審査までに3人の教員を探す必要。
- 吉永：9月入学後、教授と面談したり、研究室のミーティングに参加したりして、志望研究室を選定。11月に一斉に志望を出し、決定。
- 渡部：研究室はない。代わりにQualifying Examのコミッティー5人とその中から引き続きDissertation Committeeに入ってくれる3から4人をコース・ワーク終了時まで決める。

実際に入ってみて

- 高木：研究を始めないと分からないこともある（先生との相性等）。入学してからのflexibilityも考慮すべき。
- 吉永：学生というよりも、一研究者としての扱いを受ける。実際に配属して実験してみないと、研究室の相性・dynamicsは分からない。
- 渡部：3年目くらいまでは毎日枕を涙で濡らしながら頑張っていたが、それからは何をやっても楽しい。

日本よりも自由度が高い分子想できない部分も多い。それをいいと思うか悪いと思うかは。。。あなた次第。

留学してよかった??

- 高木：よかった。最先端の研究のdynamicsを肌で感じられる環境で研究できるのは幸せ。色々な人がいて視野が広がる。そして単に楽しい。
- 吉永：よかった。キャンパスから研究に対する情熱・意欲を感じる。MITが特別かもしれない。もちろん不満もあるが、それを上回るほどキャンパスライフは楽しい。
- 渡部：キャンパスでの研究も私生活も楽しい。

Discussion:

楽しい楽しいって何がそんなに楽しいの？

それって留学しないと得られない楽しさなの？

留学しないと得られないものって何??

おまけ～留学してならではの体験～



Team Japan
(*Sushis*)



Team Physics
(*Annihilation
operators*)